



～地域とともにある学校をめざして～

鯨コミ

R4 CS通信No.7 R4.7.12



(コミュニティ・スクール通信) 文責 社会教育推進 DC 藤田昭彦

工夫やアイデアで満ち溢れ、盛り上がった第1回CSタウンミーティング

鯨ヶ沢町の小学校(西海小学校・舞戸小学校)と中学校(鯨ヶ沢中学校)、この3校が共通して、あるいは単独で抱える課題に対して、地域の様々な立場の方々が意見交換することで具体的な取り組みにつなげ、課題の解決を目指していくことを目的として、去る7月2日(土)に第1回CSタウンミーティングを開催しました。

会場には、3校の校長の他、各校のPTA関係者、町社会福祉協議会の方、保育施設の保育士の方、町内会の代表者等、実に様々な立場の方が30名程集まりました。



今回のタウンミーティングでは、「今後の学校の在り方」をテーマに、①地域スポーツ人材の確保、②PTA活動の改善、③安心安全な通学路の確保、④学校支援ボランティア体制の整備、⑤地域でどのような子供を育てるのかという5つの副題を設け、参加者が副題をテーマとした5つのグループに分かれて意見を出し合い、協議するという形で行いました。

グループ協議の前には、3校の校長からテーマに対する情報提供があり、それを元に30分程度の話し合いを行いました。グループごとに話し合われた内容についてご紹介します。

①地域スポーツ人材の確保(中学校の部活指導者を地域の方に移行するという流れを受けて)

○教員は、部活動の顧問を担当してほしい。そうすると、外部コーチは競技指導に専念できる。
○学校(教員)、地域、ボランティアが一体となり、部活を支えていく仕組みにしたい。



②PTA活動の改善(学校運営に地域が関わっていく仕組みをPTAにも取り入れる考えを受けて)

○近年、不審者もいるので、PTAに誰でも入れるという考えは難しい。しかし、希望する祖父母を入れることで、地域の人とのコミュニケーションが取れ、良いのではないかと考える。



③安心安全な通学路の確保(バス停や通学路での見守りに対する課題から)

○バス下校時の見守りについては、ボランティアで行っているため、毎日となると人材の確保も課題となる。

○今後の取り組みとしては、通学路で見守る際、危険箇所を探すことや子ども達への声掛けが大切なのではないか。



④学校支援ボランティア体制の整備(日常の教育活動を充実させる取り組みの工夫として)

○ボランティアに入るには、学校の雰囲気やどういう内容なのかを分からないと、一歩踏み出せないで、祖父母やボランティアが給食を食べたり、校内を見学したりすることで自分もできるかもと思うことが必要でないか。

○ボランティア活動がどのように行われているのか、動画等で配信すれば良いのではないか。

○保育士の研修として、ボランティアに入ること、送り出した子たちの様子もわかるし、学校側も良いのではないか。

○学校に子供が入っていないから関係がないのではなく、町の子は町全体で育てるという取り組みが行えたらよいのではないか。



⑤地域でどのような子供を育てるのか(地域課題に目を向ける、地域の未来を考える子供の育成を目指して)

○将来、鯉ヶ沢で働いてくれるように、町の魅力をしっかりと学ぶ仕組み作りが必要である。

○ふるさと学習で、子供達が自発的に調べていけるような仕組みづくりが必要である。

○高齢者の生活を気にかける、また理解していけるように、コミュニケーションを図ることが必要である。

○町の文化、自然、伝統芸能を継承していける子を育てる。そのため、幼少期から、見たり触れたりする学びが必要である。

○基本となる挨拶をしっかりとできるように育てていくことが必要である。



グループ協議で話し合われた課題、取り組みの工夫、アイデア等は、今後の学校と地域の在り方を考える上で貴重な意見です。

学校運営協議会としても、今回の貴重な意見を参考にして、今後の学校と地域の在り方をさらに協議していきたいと思えます。

尚、第2回タウンミーティングを11月に開催する予定です。

皆さんの参加をお待ちしています。

